

どうぞうあみだによらいおよびりょうきょうじりゅうぞう
銅造阿弥陀如来及両脇侍立像



せいしぼさつ
勢至菩薩（脇侍）

頭頂から足先まで概ね一鑄で造り、又、両肩より先の両腕部も別に一鑄で造り本体とは両腕部側に造り出した蟻ほぞで接合している。胸飾り、天衣、垂髪も各別鑄している。

観音菩薩と同形の宝冠を付け、其の前面には蓮華文様がある。

頭部の白毫は嵌め込みで、右手を上拱手（胸の前で重ね）している。天衣は、二重の半月形を造っている。

あみだによらい
阿弥陀如来（中尊）

頭部の螺髪から、足先までを一鑄で造り、肉髻、白毫とともに水晶の嵌め込みである。

右前膊から外側に垂れる袖部、左前膊から内側に垂れる袖部、両手より先を別に鑄造している。

右手を上げ、掌を正面に向け五指を伸ばし、左手は垂下し刀印を結ぶ。

納衣は通肩、流麗な衣紋を前面に描き、袖の下がりには薄く美しい曲面を示している。

かんのんぼさつ
観音菩薩（脇侍）

勢至菩薩と同様に、頭頂から足先まで概ね一鑄で造り、両肩より先の両腕部は別に一鑄で造り本体とは両腕部側に造り出した蟻ほぞで接合している。

胸飾り、天衣、垂髪を各別鑄している。

勢至菩薩と同形の宝冠を付けている。頭部の白毫は嵌め込みで、左手を上拱手（胸の前で重ね）している。天衣は、二重の半月形を造っているが一部に欠損が見られる。

台座は、三尊とも鑄抜きで、中尊の返花だけが二段に造られている。台座までが当初の物が残ることは、貴重である。